



公益社団法人

日本語教育学会

2022年度日本語教育学会秋季大会

2022年11月26日（土）・11月27日（日）
オンライン開催

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の水際対策が段階的に緩和され、国際的往来が再開しています。私が訪れる学校の日本語教育現場でも海外からの新規編入の子どもが再び増えはじめ、新たな仕組みをつくり感染防止対策と教育の両立を模索しています。会員の方からも対面の学びの価値を実感しつつ教育実践の多様なスタイルを探っていると伺います。病疫や自然災害、技術進化等により未来予測が難しい時代に、その変化と問題に対し、日本語教育学という研究的・実践的関心を共有する私たちだからこそできる挑戦があると実感しています。

本学会はこの間、大会の開催形態に関し検討を重ね、通常開催として春季大会をオンラインで、秋季大会を対面で開催することにしました。これにより2022年秋季大会は、姫路で対面で開催する予定でした。しかし、COVID-19の感染が依然予断を許さない状況にあることから、大会を安全かつ確実に実施し、研究・実践の発表の場を提供するためにオンライン開催へと変更しました。コロナ禍後に向けて社会が動き出している中、会員の皆様の多くが対面での開催を新たな一歩として心待ちにしていたと思います。大変残念な決定となりましたが、改めてご理解をお願いいたします。

大会委員会はオンライン大会の実効性をさらに高めるために力を尽しています。参加者の皆様とともに本大会を躍動と融和のオンライン空間として構築・運営して参りたいと思います。どうぞ、研究・実践の手がかりと仲間を得、アイデアを発展させるためにこの空間を飛び回ってください。

公益社団法人日本語教育学会 会長 齋藤ひろみ

目次

開催のご挨拶	1
開催概要／目次	2
大会日程	3
一般公開プログラム	4
発表一覧：パネルセッション	5
発表一覧：口頭発表	6
発表一覧：ポスター発表	10
同時開催イベント	14

◆今大会の実施方法について◆

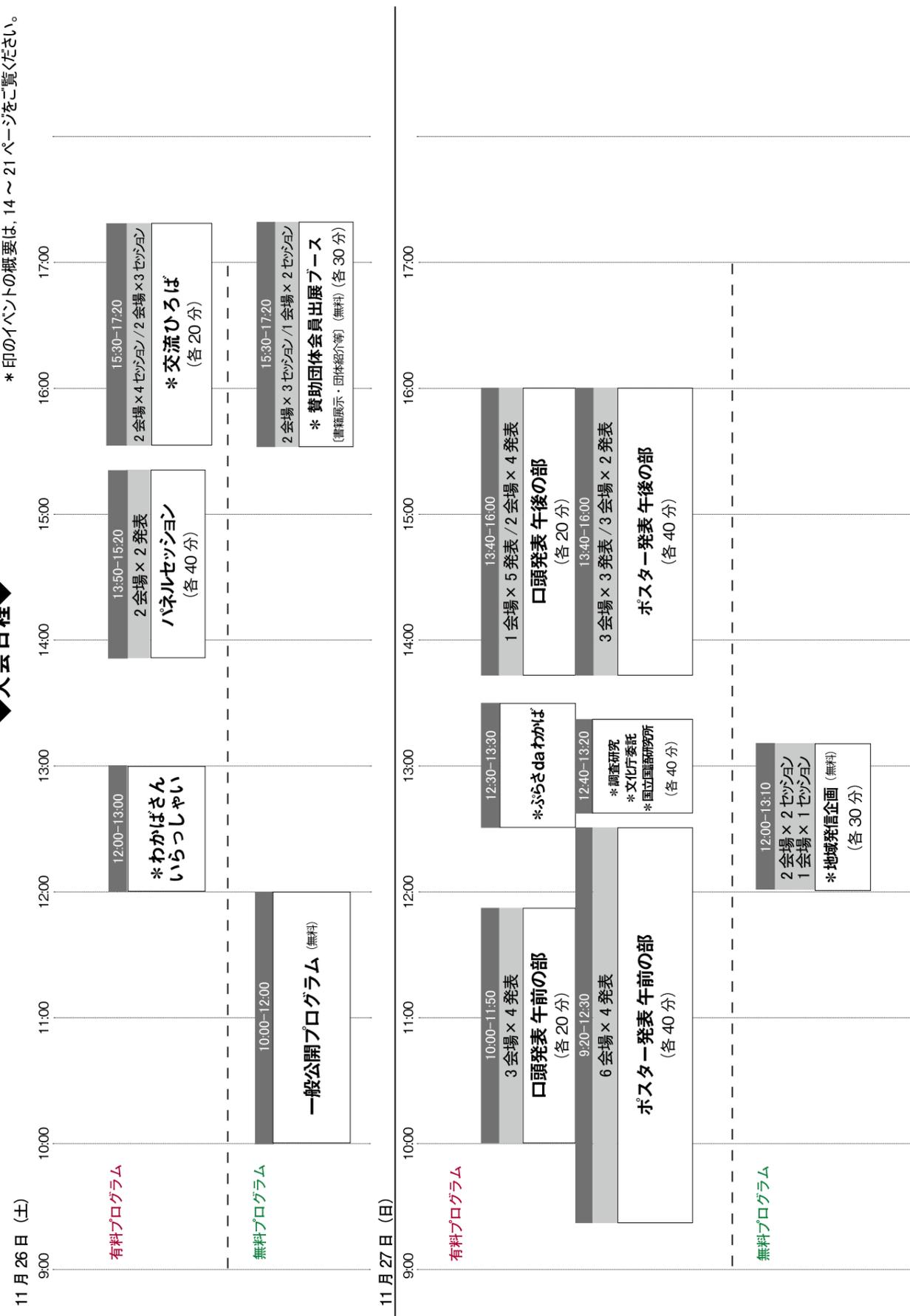
2022年度日本語教育学会秋季大会は、全面的にオンライン開催となります。

- ・学会発表については、以下の3つの方式の組み合わせにて行います。
 - ①事前のオンデマンドによるビデオ配信・資料閲覧：2022年11月18日（金）～12月11日（日）
（パネルセッション：ビデオ60分、口頭発表：ビデオ20分、ポスター発表：ポスター掲示）
 - ②事前の指定フォームによる質問受付：2022年11月18日（金）～11月25日（金）正午
 - ③大会当日のZoomによる同時双方向型の質疑応答：2022年11月26日（土）・27日（日）
（パネルセッション：40分、口頭発表：20分、ポスター発表：40分）
※当日は質疑応答のみで、ビデオ再生の時間は設けておりません。
- ・その他のプログラムの実施方法については、本プログラムおよび学会ウェブサイト「大会・イベント」のページ（<https://www.nkg.or.jp>）にて、今後公開される告知等をご確認ください。
- ・オンライン開催における有料プログラムへのご参加は、事前参加登録のみとなります（当日受付は行いません）。
- ・無料プログラムへのご参加は、事前申込は不要です。参加方法については、学会ウェブサイトをご参照ください（10月中旬に詳細を公開予定）。

- ◆主催：公益社団法人日本語教育学会
- ◆大会参加費（有料プログラム）：
 - 【事前登録 ※お支払い時に手数料がかかります】
 - 会員 3,500円
 - 会員（有効期限付き学生証を提出済みの方）2,000円
 - 会員でない方 5,000円
 - 【当日受付】オンライン開催では行いません。
- ◆事前登録期間：2022年10月16日（日）～11月15日（火）
- ◆問合せ先：
 - E-mail: taikai-office@nkg.or.jp（下記を除く大会に関する問合せ先）
 - nkg.taikai@gmail.com（オンライン参加に関する技術面の問合せ先）
 - TEL: 03-3262-4291

◆大会日程◆

* 印のイベントの概要は、14～21ページをご覧ください。



* 無料でご参加いただけます。

外国につながる子どもの高等学校における学びの環境を考える

11月26日(土) 10:00 ~ 12:00

主催：公益社団法人日本語教育学会 社会啓発委員会

外国につながる生徒をめぐるは、高等学校の入学選抜の制度、進学や入学後の支援等に地域格差があることがわかっています。プレスクール、小学校・中学校における支援は盛んに議論され徐々に知見も積みあがってきましたが、高等学校における支援は課題として残されています。高等学校での学びの環境を整え、子どもたちに学力をつけてもらい社会に送り出すことは、学ぶ権利の保障という点で受け入れ社会の責務であり、人材育成という点でも日本社会にとって重要なことです。

高等学校における「特別の教育課程」の運用が2023年4月から開始されるタイミングをとらえ、本プログラムでは、高校における「特別の教育課程」について理解を深めたいと思います。さらに、大阪府立高校の先進的取り組みについて知るとともに、兵庫県内の関係者に「特別の教育課程」に期待するところを聞き、参加者それぞれの地域での支援について考えるきっかけにしたいと思います。

登壇者：

- 「高等学校における特別の教育課程について」
中山由紀氏（文部科学省総合教育政策局国際教育課）
- 「先進的取り組みを行う高校から特別の教育課程に期待すること」
甲田菜津美氏（大阪府立大阪わかば高等学校）
- 「外国出身の学校教員として特別の教育課程に期待すること」
中島瑛美氏（姫路市立谷外小学校）
- 「支援者として特別の教育課程に期待すること」
辻本久夫氏（関西学院大学）

進行・趣旨説明：内海由美子氏（山形大学）

* 本プログラムは Zoom ウェビナーにて行います。開催近くなりましたら日本語教育学会ウェブサイト等で URL をご案内いたしますので、当日直接オンライン会場にお越しください。事前予約不要、当日先着 1,000 名様とさせていただきます。

本ページ以降の「発表一覧」において、所属表示が「同」となっているものは、直前に記載された共同発表者と同じ所属であることを示します。

パネルセッション—質疑応答—

第1部 [13:50 ~ 14:30 (40分)]

第1会場

① 留学生のキャリア形成支援の現状と展望—自身で成長する核を作る—

菅長理恵（東京外国語大学）
寅丸真澄（早稲田大学）
渋谷博子（クリエイティブ日本語学校）
伊集院郁子（東京外国語大学）
中井陽子（同）

第2会場

③ 「支援」はどのように規定されるのか—国語教育と日本語教育からの照射—

中井好男（大阪大学）
宮本敬太（ゲットハーモニー協同組合）
丸田健太郎（広島大学附属小学校）
金志唯（広島大学大学院生）
岡田祥平（新潟大学）

第2部 [14:40 ~ 15:20 (40分)]

第1会場

② 学習者と教員の背景要因がアカデミックな日本語教育に及ぼす影響—ビリーフ・学習プロセス・学習環境の観点から狭義の言語能力育成を超えて—

村岡貴子（大阪大学）
阿部新（東京外国語大学）
脇田里子（同志社大学）
池田隆介（北九州市立大学）
大島弥生（立命館大学）

第2会場

④ オンライン授業を問い直す—学びの最適化をめざして—

高橋薫（創価大学）
保坂敏子（日本大学）
藤本かおる（武蔵野大学）
尹智鉉（中央大学）

口頭発表—質疑応答—

午前の部 [10:00 ~ 11:50 (各 20 分)]

第1会場	
司会：堀恵子（筑波大学）	
10:00 ~ 10:20	① 日本語母語話者と日本語学習者の作文に見られる接続表現の比較 伊集院郁子（東京外国語大学）
10:30 ~ 10:50	② 高度外国人材に求められる「聞く」「読む」「書く」「話す」能力とは—質的調査法・量的調査法を用いた Can-do statements の構築— 葦原恭子（琉球大学）、島田めぐみ（日本大学） 塩谷由美子（東京富士大学） 奥山貴之（沖縄国際大学）、野口裕之（名古屋大学）
11:00 ~ 11:20	③ メタ認知促進を目指した初級スピーチ自己評価活動 渡辺倫弥（東京国際大学）、篠崎佳恵（同） 大住あかり（同）
11:30 ~ 11:50	④ 日本語聴解テストにおける選択枝提示形式の影響—国外で学ぶ初級学習者を対象に— 島田めぐみ（日本大学）、澁川晶（国際基督教大学） 孫媛（国立情報学研究所）、保坂敏子（日本大学） 谷部弘子（東京学芸大学）

第2会場		第3会場	
司会：有田佳代子（帝京大学）		司会：衣川隆生（日本女子大学）	
10:00 ~ 10:20	⑤ 日本語教育系大学院の教員が質的研究論文の指導上で経験する問題—量的分析に軸足を置いてきた大学院教員の振り返りの質的分析— 朴在恩（一橋大学）	⑨ 雑談における物語についての評価発話の機能—中国人上級日本語学習者と日本語母語話者の比較を通して— 張未未（早稲田大学大学院生）	
10:30 ~ 10:50	⑥ テキストマイニングによる旧ソ連製の日本語教科書「Учебник японского языка для начинающих」の計量分析 佐野晃（筑波大学）	⑩ 中国人留学生を対象とするオンライン環境におけるピア・レスポンスの実態—「研究計画書」作成支援のための活動プロセスの分析から— 蔡苗苗（大阪大学大学院生）	
11:00 ~ 11:20	⑦ 理工系を専門とする留学生に必要な漢字・語彙—化学教科書と既存教材との比較対照を通して— 久保田育美（明石工業高等専門学校） 杉山暦（札幌大学）	⑪ 中国人中級日本語学習者における文のディクテーションの認知過程—作動記憶容量とディクテーションのタイミングを操作した実験的検討— 邵雲彩（広島大学大学院生）	
11:30 ~ 11:50	⑧ 海外で子供を育てる日本人保護者の家庭内言語方針に影響を与える要因 若松史恵（岡山大学）	⑫ 日中バイリンガルの音声版日本語語彙サイズテストの開発と検証 彭悦（京都大学大学院生）、梁震（同） 笹尾洋介（京都大学）	

口頭発表—質疑応答—

午後の部 [13:40 ~ 16:00 (各 20 分)]

第1会場	
司会：森篤嗣（京都外国語大学）	
13:40 ~ 14:00	⑬ 形容詞語幹を持つ自他対応動詞の自他の使用傾向に関する分析 新谷知佳（大阪大学大学院生）
14:10 ~ 14:30	⑭ 日本語新聞社説の英語訳から見る接続表現の使用特徴—非対応の現象に着目して— 桶谷潤（早稲田大学大学院生）
14:40 ~ 15:00	⑮ 映像教材のための語彙リスト作成と日本語学習番組「ひきだすにほんご」の語彙の分析 石山友之（国際交流基金）
15:10 ~ 15:30	⑯ 「は」と「が」の指導法に関する実践報告—本当は簡単なことと本当は難しいこと— 庵功雄（一橋大学）
15:40 ~ 16:00	⑰ 「XのN」と「XなN」の混用からみる学習者の名詞とナ形容詞の捉え方—学習者の作文データを手掛かりに— 孫之依（関西学院大学大学院生）

第2会場		第3会場	
司会：米本和弘（東京医科歯科大学）		司会：山元一晃（金城学院大学）	
13:40 ~ 14:00	⑱ 言語教師の见えない多様性を探る 中山亜紀子（広島大学） 中井好男（大阪大学）	⑳	介護施設の利用者とベトナム人技能実習生のラポール形成プロセス 佐治早紀（一橋大学）
14:10 ~ 14:30	㉑ 教室談話再考—日本語教師の実践的コミュニケーション能力の観点から— 嶋津百代（関西大学）、義永美央子（大阪大学） 北出慶子（立命館大学）、古川智樹（関西大学）	㉒	日系ペルー人が介護士に就労定着していく過程で日本語習得がもたらした影響—ライフストーリー・インタビューの語りからの考察— 烏山房恵（一橋大学大学院生）
14:40 ~ 15:00	㉓ 共に学び合う教室から、共に生きる社会へ—中学校「国語科」における「アイデンティティ・テキスト」の実践を通して— Yang Lihwa 梁 梨花（慶應義塾大学大学院生）	㉓	ものづくり技能実習生の第二言語不安—誰がどのように支援できるのか— 筒井しおり（早稲田大学大学院修了生）
15:10 ~ 15:30	㉔ 批判的思考を促す質問活動—ゲーミフィケーションを活用して— 小林真也（東京外国語大学大学院生）	㉔	介護の技能実習生にとっての日本語能力試験の意味づけ 小川美香（名古屋大学）

ポスター発表—質疑応答—

		第1会場
午前の部 〔9:20～12:30（各40分）〕	9:20～10:00	<p>① メタ認知の活用を促す読解授業における振り返り活動—振り返りシートの分析からの提案—</p> <p>藤田裕子（桜美林大学）、福島智子（同） 白頭宏美（慶應義塾大学）</p>
	10:10～10:50	<p>② ある日本語教育専攻大学院生の「去りゆくストーリー」はどのようにして構築されたか—アイデンティティの葛藤と調和の試みに注目して—</p> <p>瀬尾悠希子（茨城大学）</p>
	11:00～11:40	<p>③ 日本語教師の授業内発話に関する考察—学習者への働きかけ発話の分析—</p> <p>立部文崇（周南公立大学） 藤田裕一郎（朝日大学）</p>
	11:50～12:30	<p>④ 実践を省察するラウンドテーブル型教師研修におけるファシリテーターの学び—グループ運営面に着目して—</p> <p>池田広子（目白大学）</p>
午後の部 〔13:40～16:00（各40分）〕	13:40～14:20	<p>②5 上級日本語コースにおける問題解決型プロジェクトの実践と考察—「デザイン思考」を用いた取り組みから学習者が得たもの—</p> <p>相場いぶき（国際基督教大学）</p>
	14:30～15:10	<p>②6 20年以上の教師歴を持つ専任日本語教員のライフキャリアの多様性—TEAを用いたキャリア形成可視化の試み—</p> <p>佐藤綾（福井大学） 片野洋平（長岡技術科学大学）</p>
	15:20～16:00	<p>②7 日本語教師を「続けない」というキャリアの転機—海外で日本語教師を経験した3名の語りから—</p> <p>松尾憲暁（岐阜大学） 山本晋也（周南公立大学） 高井かおり（明星大学）</p>

第2会場	第3会場
<p>⑤ 日本国内の日本語学校における多読実施状況調査</p> <p>佐々木良造（静岡大学） 香月裕介（神戸学院大学） 鷹野恵（筑紫女学園大学）</p>	<p>⑨ 講義理解のためのストラテジートレーニングが学習者の意識に与えた影響</p> <p>毛利貴美（岡山大学） 古川智樹（関西大学）</p>
<p>⑥ キャリア支援者は外国人留学生のキャリア形成をいかに捉えているか—高等教育機関におけるインタビューから—</p> <p>寅丸真澄（早稲田大学）、佐藤正則（山野美容芸術短期大学） 松本明香（東京立正短期大学）、家根橋伸子（東亜大学）</p>	<p>⑩ 文系大学院留学生が自らを論文作成に方向づける情意要因とは—2名の留学生のケーススタディー—</p> <p>小森万里（大阪大学）</p>
<p>⑦ 日本語教育研究のための「かんたん日本語テスト」の開発—信頼性と妥当性の検証—</p> <p>吉田暁（城西大学）、市江愛（東京都立大学） 石黒圭（国立国語研究所）</p>	<p>⑪ 日本語学習者のための文章難易度を利用した穴埋め問題の自動作成システムについて</p> <p>李在鎬（早稲田大学） 長谷部陽一郎（同志社大学）</p>
<p>⑧ 日本語教育機関における研究会の可能性—実践を研究につなげる場として—</p> <p>鈴木秀明（目白大学） 鈴木美穂（同）</p>	<p>⑫ 外国にルーツのある非行少年の変容—少年院における指導と日本語教育の関係—</p> <p>山下千聖（早稲田大学大学院生）</p>
<p>②8 ベトナムの地方都市における言語学習の価値—英語・中国語・韓国語・日本語を比較して—</p> <p>瀬尾匡輝（茨城大学） 小西達也（京都外国語大学大学院生）</p>	<p>③1 外国につながるの中学生対象の教科書学習につなぐための日本語教材の開発—社会・理科・数学の教科書における文章特徴を捉えての内容理解と自律学習力獲得—</p> <p>志村ゆかり（一橋大学）、ビアルケ千咲（大妻女子大学） 志賀玲子（東京経済大学）</p>
<p>②9 小学校社会科教科書の語彙調査—小学校で学習する語彙の特徴の抽出に向けて—</p> <p>山本裕子（愛知淑徳大学） 川村よし子（元東京国際大学） 鷺見幸美（名古屋大学）</p>	<p>③2 留学生のコロナ禍の渡日におけるメンタルヘルス—日本留学を複数回経験した留学生の語りをもとにした事例研究—</p> <p>下村朱有美（大阪大学）</p>
<p>③0 日本語教師研究としての「言語ヒストリー（LH）」の実践（2）—テキストマイニングによるLHの分析—</p> <p>小林浩明（北九州市立大学）、和泉元千春（奈良教育大学） 上田和子（武庫川女子大学）、野畑理佳（同）</p>	<p>③3 ビジネス日本語の電子教材を用いた異文化間理解の授業の試み—米国コーネル大学とのCOILを通して—</p> <p>蒙根（新潟大学）</p>

ポスター発表—質疑応答—

午前の部

[9:20 ~ 12:30 (各 40 分)]

9:20 ~ 10:00

第 4 会場

⑬ 在日ベトナム人母の園生活における奮闘—フォーカス・グループによる分析—

杉本香 (大阪大谷大学)
樋口尊子 (同)

10:10 ~ 10:50

⑭ 散在地域の外国につながる児童生徒をめぐる日本語支援の課題—「入り込み」支援を実施した大学生へのインタビューを通して—

安田真由美 (長崎外国語大学)
中原郷子 (同)

11:00 ~ 11:40

⑮ 多様な住民の協働による地域日本語活動の実践

神吉宇一 (武蔵野大学)
中野玲子 (日本語みらいラボ (深川))

11:50 ~ 12:30

⑯ 国際交流団体が多文化共生を担うとき—北海道 2 市の日本語学習支援の事例をもとに—

平田未季 (北海道大学)
久保比呂美 (北見工業大学)
式部絢子 (北海道大学)

午後の部

[13:40 ~ 15:10 (各 40 分)]

13:40 ~ 14:20

⑳ 移住者と受入れ社会との言語行為再考—生活のための「自立した」日本語能力とは—

松岡洋子 (岩手大学)

14:30 ~ 15:10

㉑ 自治体職員対象やさしい日本語研修の実践報告—書き換えの変容に着目して—

柳田直美 (一橋大学)

第 5 会場

㉒ 日本語教育実習に関する研究の動向—2010 年以降を中心に—

三好優花 (一橋大学大学院生), 張瀟尹 (同)
張曦冉 (同), 徐煉 (同)

㉓ 男性日本語教師のキャリア形成に影響を与える要因の探索

富樫里真 (目白大学大学院生)

㉔ 中堅日本語教師は研修をどう意味づけているのか—「JCN 研修」を振り返って—

水野瑛子 (名古屋学院大学)
松本真由美 (翰林日本語学院)

㉕ 「教える」地域日本語教室が果たす機能と学習者のエンパワーメントの様相

今村桜子 (東京学芸大学連合大学院 (横浜国立大学設置) 大学院生)

㉖ 当該発表は、発表者の都合により中止となりました。

㉗ 在日外国人の対人関係における不安への「居住年数」「国籍・地域」「差別的な経験」の影響に関する一考察

張氷穎 (東京大学)

第 6 会場

㉘ 中学校の国際教室担当教員のふり返り—同一国際教室における 20 年の実践をもとに—

宇津木奈美子 (帝京大学)

㉙ 日本語教科書における「カモシレナイ」の扱いについて—婉曲表現としての「カモシレナイ」を中心に—

崔艶鵬 (神戸大学大学院生)

㉚ 程度副詞としての「すごく」の形式別使用実態—「日本語話し言葉コーパス」調査より—

日暮康晴 (筑波大学大学院生)

㉛ 家庭内相互行為における幼児の「てあげる」使用—他者に恩恵的行為を与える実践—

乾友紀 (大阪大学大学院生)

㉜ ビジネス場面の読解困難なテキストに関するインタビュー調査—メールと社内文書の定量的分析に向けて—

石井知子 (早稲田大学大学院生)

㉝ 食事介助に向けた日本語テクスチャー用語の分析

黄海洪 (京都大学大学院生)

わかばさんいらっしやい

[11月26日(土) 12:00～13:00]

主催：公益社団法人日本語教育学会 チャレンジ支援委員会

「わかばさん」とは、日本語教育を学ぶ学生・大学院生、日本語教育活動に関わり始めたばかりの方、教育経験は長くても研究活動を始めたばかりの方など、日本語教育学会ビギナーの方たちのことです。わかばさんが初めて大会に参加するときは、「学会って、どんなところなんだろう?」「どんな人が参加してるんだろう?」「どの発表を聞けばいいんだろう?」など、少し不安だったり、ちょっと勇気が必要だったり…。そんなわかばさんをお迎えし、サポートするのが本イベントです。「わかばさんいらっしやい」では、事前に配信する動画で、大会のしくみや聞く発表の選び方、大会の楽しみ方などをご説明します。大会当日は動画の内容について簡単に質疑応答を行なった後、「わかばさん交流会」を開催し、わかばさん同士でお話できる場も用意しています。新しい出会いがあると大会はきっともっと楽しくなり、また大会終了後もネットワークはどんどん広がっていくでしょう。参加希望の方は、大会参加手続きを済ませてから、本イベント専用の申し込みフォームでお申し込みください。たくさんわかばさんのご参加をお待ちしています。

交流ひろば

[11月26日(土) 15:30～17:20]

主催：公益社団法人日本語教育学会 支部活動委員会

2017年度に新たに事業を始めた支部活動委員会では、「人をつなぎ、社会を作る」という理念体系に掲げられた使命と「日本語教育の情報交流を促進する」という事業方針を実現するために、秋季大会でも「交流ひろば」を開催します。

「交流ひろば」では、出展者の教育実践や研究の紹介・共有、そして参加者との情報・意見交換が行われます。審査を経た発表ではありませんが、出展を通して同じ興味や問題意識を持つ者同士がネットワークを拡げることが目的とした企画です。

本大会では、日本語教材の作成、日本語と社会・文化に関する教育実践、日本語教師が直面する現場での課題やスキルをテーマとして取り上げた多様な取り組みが紹介されます。実践的取り組みの共有を通して、活発な交流が生まれることを期待しています。ぜひ、事前配信資料をご覧のうえ、意見・情報交換に参加してみてください。

* 出展の詳細は、18・19ページをご覧ください。

賛助団体会員出展ブース

[活動紹介・書籍紹介・教材紹介等]

* 無料でご参加いただけます。

[11月26日(土) 15:30～17:20]

出展：公益社団法人日本語教育学会 賛助団体会員

本会には「賛助団体会員」「賛助個人会員」という会員種別があり、このうち「賛助団体会員」として全国の出版社、書店、日本語学校、企業、NPO団体等、50団体が入会しています。(2022年9月現在)

賛助団体会員の皆様からは、日本語教育全体の発展と本会の運営の促進のために多大なご協力をいただいています。

「賛助団体会員出展ブース」では、各団体の紹介や、最新情報の発信、書籍・教材の紹介等を行います。当日の双方向型オンラインセッションのほか、オンデマンドによるビデオ配信、資料配信も行っておりますので、ぜひご覧ください。

* 事前申込は不要です。参加方法は10月中旬に学会ウェブサイトにて公開予定です。

* 出展の詳細は、20ページをご覧ください。

地域発信企画

[コロナ禍における地域での外国人支援]

* 無料でご参加いただけます。

[11月27日(日) 12:00～13:10]

主催：公益社団法人日本語教育学会 支部活動委員会

地域発信企画は、日本語教育学会秋季大会の開催地を対象地域としながら、その地域の日本語教育の様々な取り組みや成果を全国に発信することを目的に開催されます。

本年度は、学習機会の提供や居場所作りなどを通して、地域コミュニティの居住者としての外国人とその子供たちの支援に取り組んでいる関西地域の6つの団体をご紹介します。「コロナ禍における地域での外国人支援」をテーマとして、コロナ禍が長引く中で、どのように活動を続けてきたか、コロナ禍での取り組みを通して何が見えてきたかなどについても、参加者の皆さんとの意見交換を交えながら、取り上げる予定です。

本企画は地域外国人が直面する様々な課題を知り、その支援に真剣に取り組んでいる方々のお話を直接聞く貴重な機会です。自由闊達な意見・情報交換を通して、新しい発見や刺激、そして新たなつながりが生まれることを期待しています。ぜひご参加いただき、多様なあふれる関西コミュニティでの様々な外国人支援・日本語教育の取り組みに触れ、ネットワークを広げてください。

* 事前申込は不要です。参加方法は10月中旬に学会ウェブサイトにて公開予定です。

* 出展の詳細は、21ページをご覧ください。

ぶらさ da わかば

[11月27日(日) 12:30～13:30]

主催：公益社団法人日本語教育学会 チャレンジ支援委員会

この学会に集うだれもが最初は「わかば」マークをつけて日本語教育の実践や研究に関わり始めました。日本語教育の世界で自分の先を歩いている「センパイ」と交流する機会を持つことができれば、ちょっとしたヒントをもらったり、悩みや疑問について相談したりできるかもしれません。とは言え、自分から「センパイ」に話しかけることはなかなかむずかしいことではないでしょうか。そんな「わかば」な人のための企画が「ぶらさ da わかば」です。少人数(1～3人)で1人の「センパイ」を囲み、気楽に話すチャンスです。研究や実践の話をしたり、キャリアの相談をしたり、「センパイ」の経験談を聞いたり、普段なかなか出会う機会のない「センパイ」と自由に対話をしてみませんか。今大会も「ぶらさ da わかば」は、ZOOMのブレイクアウト機能を使用し、オンラインで実施します。参加希望の方は大会参加申し込み後、「ぶらさ da わかば」にお申し込みください。定員は20名程度、先着順です。詳しい申し込み方法や「センパイ」のプロフィールはチラシまたは学会ウェブサイトをご覧ください。

文化庁委託事業説明会

「子ども初任研修・日本語教育参照枠教育モデル事業」

[11月27日(日) 12:40～13:20]

主催：公益社団法人日本語教育学会 文化庁委託事業特別委員会

本学会は現在、文化庁より3つの事業を受託しています。「日本語教育人材のための研修モデルプログラム普及事業」として、児童生徒等に対する日本語教師【初任】研修(3年目、以下、子ども初任研修)と、日本語教師【中堅】に対する研修(2年目)の2事業、そして今年度受託した『日本語教育の参照枠』を活用した教育モデル開発事業:生活分野(以下、参照枠事業・生活)です。

研修2事業について、春季大会では概要と受講者募集のご説明をいたしました。本大会では「子ども初任研修」が今年度運営しているプラットフォームのご案内をいたします。これは、子どものための日本語教育研修モデルの普及と関係者のネットワーク化を目的とするウェブサイトです。

参照枠事業・生活についても概要を後紹介いたします。この事業では2カ年で「日本語教育の参照枠」を活用したカリキュラムの開発、教師研修モデル開発及び実施、評価方法の開発に取り組みます。ご関心をお持ちの方、是非ご参加ください。

研究倫理・科研申請アドバイスセミナー

[11月27日(日) 12:40～13:20]

主催：公益社団法人日本語教育学会 調査研究推進委員会

本企画は、「(1) 調査研究の際に留意すべき研究倫理」および「(2) 科研申請に必須の注意事項」について情報提供し、参加者の理解を深めることを目的としています。(1)では調査研究のためのデータ収集、学会発表、論文作成・投稿等における研究倫理について説明するとともに、教員が学生を指導する際に留意すべき点、ハラスメントが起こる危険性について問題提起します。(2)では科研申請のための基本情報と科研費採択経験者や審査委員経験者等からの具体例を交えた情報を提供します。

当日は以下のスケジュールで進める予定です。

- ・12:40-13:00 (1)調査研究の際に留意すべき研究倫理(動画視聴・質疑応答(各10分))
- ・13:00-13:20 (2)科研申請に必須の注意事項(動画視聴・質疑応答(各10分))

動画に関する質問は事前に質問フォームに書きこんでいただいても、当日していただいてもかまいません。

皆さまのご参加をお待ちしています。

国立国語研究所

先端学術院先端学術専攻日本語言語科学コース(博士後期課程)についての説明会

[11月27日(日) 12:40～13:20]

主催：大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国立国語研究所

国立国語研究所では、2023年4月に総合研究大学院大学が設置する先端学術院先端学術専攻日本語言語科学コース(博士後期課程)に参画します。

説明会では、これまで総合研究大学院大学を知らなかった方、博士後期課程への出願を検討している方をはじめとして本コースに関心をお持ちの方に本コースの概要、授業、入試等に関して説明します。

第1部【15:30～15:50】

＜第1会場＞

① JCN 研修関係者における交流活動の紹介・共有—研修後の私たち—

安達万里江（関西学院大学）、秋田節子（岡山大学）、前田和則（崇城大学）、安原凜（環太平洋大学）

私たちは2021年度文化庁事業「日本語教育学会の人材、知財、ネットワークを活かした中堅日本語教師のための研修プログラム（JCN 研修）講師養成コース」の修了生です。研修後も、つながりを維持しようと活動を続けています。中堅日本語教師にとっての学びや成長、貢献等について、意見交換できる場にしたいと考えています。

＜第2会場＞

② JOPT 日本語口頭能力テストの運用

赤木彌生（東亜大学）、鎌田修（南山大学）、坂本正（名古屋外国語大学）、嶋田和子（アクラス日本語教育研究所）

わたしたちは、日本語学習者のスピーキング評価ツール、日本語口頭能力テスト「Japanese Oral Proficiency Test(以下、JOPT)」の研究開発、運用を行っています。興味のある方はぜひお越しください。

＜第3会場＞

③ ディスカッションを進める・深める・楽しむための会話授業

香月裕介（神戸学院大学）、福原香織（同）、下岡邦子（同）

私たちは、日本語教育の参照枠におけるB1～B2レベルの学部留学生を対象に、ディスカッションを学ぶことに特化した会話の授業を行っています。ディスカッションに興味のある方、実際に取り組んでいる方、問題意識を持っている方と、様々な意見交換ができれば幸いです。

＜第4会場＞

④ 「たどくのひろば」の多読向けの読み物「にほんごちょっとストーリーズ」の作成とその特徴

吉川達（佐賀大学）、佐々木良造（静岡大学）、門倉正美（横浜国立大学名誉教授）

佐藤淳子（北海道大学大学院生）、森勇樹（在日米国大使館）

私たちは「にほんごちょっとストーリーズ」という多読用の読み物を作成し、ウェブサイト「たどくのひろば（https://tadoku.info）」で公開しています。Web 公開されている多読読み物には「NPO 多言語多読」や「読み物いっぱい」などがありますが、それらと対照させながら「ちょっとストーリーズ」の作成コンセプトを紹介し、授業での活用方法をみなさんと共有します。

第2部【16:00～16:20】

＜第1会場＞

⑤ 日本語教師のためのオンラインコース「eラーニング活用ガイド」「日本語オンラインレッスン体験」「動画教材制作入門」の活用を考える

三宅直子（国際交流基金関西国際センター）、岡本拓（同）、田中哲哉（同）、中尾有岐（同）

教師向けオンライン自習コース「eラーニング活用ガイド」「日本語オンラインレッスン体験」「動画教材制作入門」の活用の可能性について意見交換をしたいと思います。eラーニングの活用方法、オンライン授業や動画制作の基礎を知りたい、受講生に教えたいという日本語教師の方、教師養成担当者の方のご参加をお待ちしています。

＜第2会場＞

⑥ 標準枠や Can-do が忘れていること—人生を分かち合う言葉の教育—

西口光一（広島大学）、小原俊彦（大阪大学）、蔭山拓（同）、萬浪絵理（CINGA（NPO 国際活動市民中心））、滝井未来（滋賀大学）

本出展では、2010年の標準的カリキュラム案から参照枠に至る経緯を改めて確認し、一方で、CEFR で記載されているが参照枠や Can-do で注目されていない側面を指摘し、今後の教育開発で表現活動という言語活動領域が注目されるべきことを指摘し、参加者ととも改めて生活・留学・就労の日本語教育のあり方について議論したいと思います。

＜第3会場＞

⑦ 反転授業による留学生対象オンラインビジネス日本語講座の実践報告

鈴木綾乃（横浜国立大学）、中川健司（横浜国立大学）

「ヨコハマ・カナガワ留学生就職促進プログラム」では、2021年6月・2022年2月に、反転授業の形式でオンラインビジネス日本語講座を行いました。作成した動画や、その内容に基づいた応用タスク等について報告し、留学生対象ビジネス日本語教育の効果的な方法について意見交換を行いたいと考えています。

＜第4会場＞

⑧ 日本語多読教材の新しい試み—留学生と日本人学生による多文化オリジナル短編集—

眞邊昌一（立命館アジア太平洋大学）、Paul Seigny（ポール セブニー）（同）

九州にある国際大学で、科研費の助成を受け、日本語・英語バイリンガルの多読教材を開発している英語講師です。日本語版では、初級から中上級までいくつかのレベルを用意しています。内容は、留学生たちが制作した舞台作品に基づく多文化オリジナル短編集です。多読に関心のある方は是非お越しください。

第3部【16:30～16:50】

＜第1会場＞

⑨ 日本語教員と介護教員の連携による留学生に対する授業実践—介護現場でのコミュニケーションを中心とした学習から—

元木佳江（四国大学）、小倉和也（同）

四国大学では介護福祉士を目指す留学生に対して日本語教員と介護教員が連携して授業を行っています。今回は、介護現場でのコミュニケーションを学ぶ教材を用いた授業実践を紹介します。介護短歌、JOPT も取り入れました。興味のある方はぜひお越しください。

＜第2会場＞

⑩ 学習者の質問力促進を目指して—質問分類表を基に質問し合う体験をしてみよう—

堀恵子（東洋大学）、安高紀子（明治大学）、大隅紀子（東京大学）、長谷川由香（法政大学）

我々グループの最終目標は学習者の質問力を高めることです。インタビュー形式で口頭能力を測定する OPI の質問を分類した表を作成しました。今回は対面開催のため、ワークショップ形式でペアで質問しあい、分類表を参照しながら質問を深めることを体験していただきます。そして、教育現場での分類表の利用可能性について意見交換をしたいと思います。

＜第3会場＞

⑪ アカデミック・ライティング指導における引用の捉え方を再考する

向井留実子（愛媛大学）、近藤裕子（山梨学院大学）

私たちは、レポート・論文における引用指導、特に、引用と文章展開を結びつけるための指導方法を探るべく、各種調査を行ってきました。本出展では、レポート・論文作成の教本を調査した結果から明らかになった引用の捉え方の課題について、意見交換をしたいと思いますので、ご興味のある方はぜひお越しください。

＜第4会場＞

⑫ 多様な背景をもつ学習者がともに学ぶための教室づくり—点字を使用する学習者への日本語授業を体験してみよう—

河住有希子（日本工業大学）、藤田恵（立教大学）、秋元美晴（恵泉女学園大学名誉教授）

中西溪（社会福祉法人桜雲会）、庄麗（国際視覚障害者援護協会）

私たちは視覚に障害がある日本語学習者のための学習環境、教授法、教材などを研究しています。視覚に障害がある学習者を受け入れることになったとき、何を準備し、どうしたらいいのかを疑似体験して頂きたいと考えています。視覚障害者用の支援機器や、点字の日本語教科書などを用意してお待ちしています。

第4部【17:00～17:20】

＜第1会場＞

⑬ 支援者への支援を目的とした、介護の日本語学習支援ブログサイトの開発

中川健司（横浜国立大学）、角南北斗（フリーランス）、齊藤真美（フリーランス）、布尾勝一郎（立命館アジア太平洋大学）

外国人介護従事者への学習支援を行う支援者への支援を目的として、「介護の日本語 学習支援ブログ」サイトを開発しました。当日は、どのような内容の記事があれば支援者にとって有益か意見交換を行いたいと思っています。興味のある方はぜひお越しください。

＜第2会場＞

⑭ コロナ禍の社会状況に焦点化した授業実践—学習者の内面にシンプルに迫る試み—

萩原秀樹（インターカルト日本語学校）

コロナ禍が続く中、新たな教育技術の導入ではなく、学習者の内面を掘り下げようとする実践です。歴史を作っているとも言える、そんな今こそ学習者とともに問い、考えるに値する課題が多いのではないのでしょうか。それをどう日本語教育現場で展開できるか、ぜひ皆さんと共有したいと思います。

11月26日(土) (団体名及びキーワード)

第1部 [15:30 ~ 16:00]

第1会場	第2会場	第3会場
株式会社 ひつじ書房 プロフィシエンシー／新刊紹介	公益社団法人 国際日本語普及協会 書籍紹介／教材紹介	株式会社 ジャパンタイムズ出版 教材紹介／アカデミック クジャパニーズ

第2部 [16:10 ~ 16:40]

第1会場	第2会場	第3会場
大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国立国語研究所 大学院紹介	株式会社 くろしお出版 書籍紹介	株式会社 アスク出版 書籍紹介／デジタル 教材紹介

第3部 [16:50 ~ 17:20]

第1会場	第2会場
一般社団法人 Global 8 OPIcテスト／会話力の可視化	株式会社 アルク 介護の日本語／教材紹介

動画・資料配信 (団体名及びキーワード)

有限会社 Jリサーチ出版 (書籍紹介), 株式会社 スリーエーネットワーク (書籍紹介／教材紹介), 学校法人文化学園 文化外国語専門学校 (通訳／教師養成), 株式会社 ラーンズ (教材紹介／生活支援)

資料配信のみ (団体名及びキーワード)

株式会社 研究社 (書籍紹介／日本語教材), 株式会社 ココ出版 (書籍紹介／教材紹介), 株式会社 三修社 (教材カタログ／大会特別注文書), 公益財団法人 日本漢字能力検定協会 (ビジネス日本語能力テスト／BJT), 株式会社 凡人社 (新刊書籍紹介／新刊教材紹介)

* 事前申込は不要です。参加方法は10月中旬に学会ウェブサイトで開催予定です。

コロナ禍における地域での外国人支援

第1部 [12:00 ~ 12:30 (30分)]

第1会場	第2会場	第3会場
① 奈良県における外国人 児童生徒等の支援ネット ワークづくり 【奈良・子どもの日本語 教育ネットワーク／新谷遥 氏】	② 外国にルーツを持つ家族 の未来に寄り添う教室 【特定非営利活動法人多文 化センター まんまるあか し／久保美和氏】	③ 兵庫県地域日本語教育 の総合的な体制づくり推 進事業 【公益財団法人兵庫県国際 交流協会／篠原典子氏・ 村上由記氏・中川歩美氏】

第2部 [12:40 ~ 13:10 (30分)]

第1会場	第2会場	第3会場
出展はありません	④ オンラインによる子育てのた めの漢字学習支援 【『生活の漢字』をかなが える会／川崎百世氏・ 小野木愛氏・高詰祐子氏・ 新庄あいみ氏・新矢麻紀子氏】	⑤ 関西ブラジル人コミュニ ティの歩み 【NPO 法人関西ブラジ ル人コミュニティCBK ／齊藤美穂氏】

* 事前申込は不要です。参加方法は10月中旬に学会ウェブサイトで開催予定です。